



かんせんかくだいけいほう コロナ感染拡大警報



2022年4月20日 発出(沖縄県)

県内では、本島圏域(本島内市町村)で病床使用率が上昇しており、医療のひっ迫が懸念されています。

☆子どもたちの感染を防ぐため、発熱、のどの痛み、鼻水などの症状がある場合は、外出を控えてください。また、子どもたちの集まる場所では、換気を行い3密を避ける、マスク着用、手洗いのなどの基本的な感染防止対策を徹底しましょう。

「密接」の場面への対応(マスクの着用)

学校における新型コロナウイルス感染症に関する衛生管理マニュアル～「学校の新しい生活様式」～文部科学省

①マスクの着用について学校教育活動においては、生徒及び教職員は、身体的距離が十分とれないときはマスクを着用するべきです。

ただし、マスクの着用については、学校教育活動の態様や生徒の様子などをふまえ、以下のとおり臨機応変に対応します。

- 1) 十分な身体的距離が確保できる場合は、マスクの着用は必要ありません。
- 2) 気温・湿度や暑さ指数が高い日には、熱中症などの健康被害が発生するおそれがあるため、マスクを外してください。『暑さ指数(WBGT)は環境省ウェブサイト で提供』
- 3) 体育の授業においては、マスクの着用は必要ありません。ただし、十分な身体的距離がとれない状況で、十分な呼吸ができなくなるリスクや熱中症になるリスクがない場合には、マスクを着用しましょう。

*息苦しいと感じたときなどには、マスクを外したり、一時的に片耳だけかけて呼吸したりするなど、自身の判断でも適切に対応できるようにしましょう。

登下校

公共交通機関を利用する場合には、マスクを着用する。帰宅後（または学校到着後）は速やかに手を洗う、顔をできるだけ触らないなどして、接触感染対策などの基本的対策を行いましょう。

マスクの主な目的

- 周囲の飛沫が広がるのを防ぐこと。
- 感染者からの大きな飛沫をブロックすること。

あなたのマスクの付け方はどれですか？

×着用したマスクを顎にかける

顎についたウイルスなどの飛散物がマスクの内側についてしまうおそれがある。

×鼻が出ている

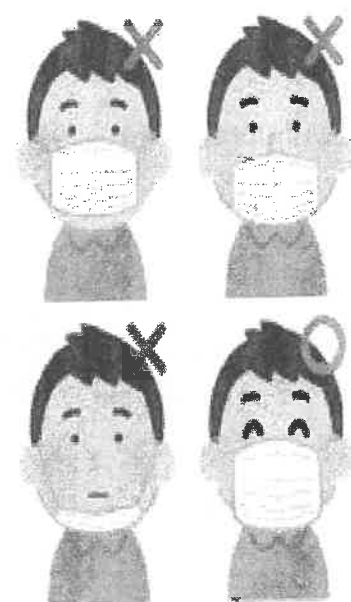
くしゃみなどをしたときに飛沫が広がるうえ、人は一度に吸う空気の9割を鼻から取り込んでいるため感染リスクが高まってしまう。

×サイズが合っていない

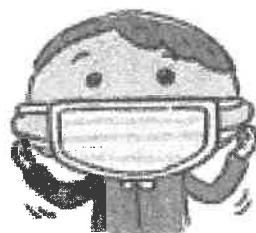
マスクと皮膚のすき間があいてしまい、口や鼻を十分に保護できない。

×マスクの外側を頻繁に手で触る

マスクに付着したウイルスが、手に移ってしまう可能性がある。



鼻と口の両方を
確実に覆う



ゴムひもを耳にかける



隙間がないよう
鼻まで覆う

マスクは正しくつけてこそ効果があります。
マスクの正しいつけ方を知り、感染症を予防しましょう。